



きくがわ花守隊

今回のまちなちの主演は、障害のある方や子どもたちとのふれあいを大切にし、地域との交流を深めながら活動しているきくがわ花守隊を紹介します。



▲農作業に慣れていない人も、農業に詳しい会員に教えてもらいながら1本1本丁寧に植えていきます。

奉仕の気持ちと
楽しむ気持ちを
大切にして

菊川町を花いっぱい
笑顔いっぱい

きくがわ花守隊は、自宅の庭をはじめ、菊川町を花でいっぱいにしてしようと平成19年から活動しています。「目立つ場所に、『見える花壇』を作る」を合言葉に主要道路沿いの花壇整備と管理をすることで地域住民や菊川町に来られる方々をお出迎えしています。会員は22人。年2回、2千本程度の花を植えています。花壇を耕し、花を植え、水やり、草取り、花がら取りを行っています。会の発起人で会長の

稗田さんに話を伺いました。「花は手入れをすると応えてくれます。草取りや水やりをすると元気になりますし、花がらを取るときれいになるでしょ」とキンギョソウの花がらを取りながらうれしそうに話します。

芋づくりを通して

会では、花植えの他にも、障害のある方との交流も行っています。町内の障害者施設の方々と一緒に、サツマイモを植え、収穫し、収穫祭「芋煮会」を開催します。芋煮会では、約100人が集まり、昼食を楽しみます。

6月22日の朝、田部高校最寄りの畑で障害者の方々と一緒に芋植えが行われました。この日の参加者は25人。暑さ





まちかどボイス

今月のテーマ
七夕入籍に込めた願い



◀会長の稗田里美さん(右)とエコファーマーで会員の藤野明弘さん(左)



▶シカがサツマイモの葉を食べないように網で畑を囲います。

の中、参加者同士で体調を気遣いながら作業を進め、今年300本のサツマイモの苗が植えられました。「芽が東の方角を向くように植えます。収穫は11月中旬頃で毎年芋煮会の時のみんなの笑顔が印象的なんです。植えた芋の葉をシカが食べるのでしっかり対策をしないと」とエコファーマーで会員でもある藤野さんは話します。「この取り組みは10年以上続いています。今日も参加者から『今年の芋煮会はいつですか。予定を空けておきたいので』と聞かれました。みんな楽しみにしてくれてうれしいです」と稗田会長も笑顔で話します。

花の輪から元気の輪を

令和元年度には、長年の活動が評価され「県民活動きらめき賞」を受賞しました。受賞を受けて稗田会長は「奉仕の気持ちと楽しむ気持ちで続けてきました。美しい花の輪が広がり、それを見た人が笑顔になり、その笑顔が元気の輪を広げていく気がします」と目を輝かせます。過去40人いた会員も高齢化で減少傾向にあります。「今後もボランティアする側も楽しめる企画を考えていきたいです。男性の方が少ないのでぜひ参加してみしてほしいです」と今後も新しい企画が生まれそうです。

編集後記

■取材で数十年ぶりに母校へ。コロナ対策で大変な中、子どもたちはとても元気でした。学校で楽しい思い出をいっぱいつくってほしいです。(き)
■久しぶりに海響館で生き物を観察する喜びに浸りました。魚の鼻の形態に興味をひかれたのでまた見に行きたいです。(ひ)
■花や歴史の資料など目に見えるものを通して気持ちや当時の姿など目に見えないものを感じられることは魅力的だと思いました。(と)